

刊夕日入廿

發行所 今般京城日報社
電話 編輯部 二六六 電話部 二六四
發行部 二六六 電話部 二六四
電話部 二六六 電話部 二六四

國産米穀と船腹 今自に於ても關帝問貨物の輸送船腹に不足するの弊ある位なるが十一月に入らば米穀及び大豆の朝鮮より内地移出を生じ貨物の出廻り愈々煩索となるべきを以て鐵道院にては貨物の融合を見んがの必要に照じ貨物船艀州九千餘噸の船を一隻船臨時輸送の任に充べしと

●電信取扱所設置 十一月二日より東京、横濱、尾崎、神戶、津、浦、三、盛、札幌に於て公衆電報の電信取扱所を開始する事となりしが、札幌は午前六時より午後十時迄、浦、三、盛は午前七時より午後七時までなりと

●自由學校組合許可 十月二十六日京畿道府政事廳以て、京畿道及智事京畿道府政事廳以て、京畿道及智事

竣工たるを以て来る十一月五日
祝の宴を催ふす可く夫々招待狀を發
したり 朝新演藝會 朝日新聞社に
ては二十九三十の兩日間歌舞役座に
於て素人及び藝妓合同の演藝會を催
はす由 新藝出過盛 仁川に廻著す
る米は昨今一日平均二千噸以上に達
しつつ有るが發送地は重に平壤、島

影響を受け大いに不況にありしが最近に至り各地共に漸次虎疫の終熄に伴ひ恐怖の念漸らぎ又魚肉を廢したる家庭にても其料理法に注意し必ず煮沸して食する時は罹疫の憂ひなき者と明明したる結果が日々需用の増加につれ市況も大いに活氣を呈し

一、内地地稅及關稅捐
 此入札保護金、各員入札金、而石
 分、五人以上
 入札者、京城府内ニ於テ領稅地方
 費府稅學按、合費年額參照以上
 事、ムル者ニシテ、一年以上、勲業ニ從
 號、大正五年六月、京城府條例第二
 會計係ニ就キ仕、其後、者、本府
 四月、前十一時、限リ、同會、係ニ入札
 一、入札

芳澤參事官船津書記官同伴二十七日午後五時段總理

伸び剛強闊大の胆魄不足は現在でも横
逆力薄弱の弊ある位だから今後一
層其の傾向を生ずるものと見るを主
當とすべく道徳の訓育については鐵
道院及び鐵道部に對し相當注意を希
望する次第である

府當局は語れり

大邸葉長界近況

大邸
中心として關連内地葉長界耕作は隆
盛なりと評し、その功績は「無敵」

二十六日の公報に曰くソム北方に於

朝鮮輕鐵工事 朝鮮輕便鐵
道會社取締役武和三郎氏の過般來孟
宮相成る弊となりたりと
に努めんとし比較的物賣收の希
ある朝鮮は他の民産製造家の氣勢
賣手買價も買方手控相互配合の姿
買手買價も買方手控相互配合の姿
買手買價も買方手控相互配合の姿

獨逸驅逐艦隊の失

の工事施行可申請をなし尙前二月二十八日遂に慶州地方官を了したる上該市の施行認可申請をなし許可のあり次第工事入札に附し引續き敷設工事に着手する筈なるを

● **北鮮鱈魚漁望** 北鮮の漁にして近年長足の發展を爲したる

れんが兎も角く業界界は例年に見る程沈滞の狀を呈しつゝありと

三線問題の解決——原田商業會議所會報

因難なりしに拘らず豆満江上流地
 方は通船の繁華ありし爲め近年種有
 の好成績を示し今日迄の流下木材は
 普通種一萬五千バネに上りて來年三
 度留せられたるものは僅に百三十
 噸、大東清船に六十餘噸の出船
 あり十七組の乾乾運道ありて今日
 の豐盛極六十萬圓の夢觀に達
 すが本年來に斯處の著しき海
 以てにして根據地たる獨裁、瀝大

一、兩日中に勅使等の任命

内地人八十朝貢人四十人計百二十人(外二十人)(舊事)

高は三百萬尾にて選すべき見込み(舊事)

爲経連の來年三四月頃迄の漁

仁川地稅完納 客月申仁川府に發生せし虎別拉病は頗る劇烈を極め人口三萬二千五百に對し約五百

咸南畜牛成績 咸南にて青年獎勵の目的を以て朝鮮七月より九月迄の三ヶ月間

御義を言はせらるゝ山承はる

佐賀縣 田一千七百五十一圓九錢地
 府署附加税三千七百五十一圓九錢地
 方費附加税三百七十五圓三錢合計一萬
 一圓に達する之れを過去にすれ
 ば、前年までは道有牛種に對し保護牛種に
 相付て來、少數なりしも本年に
 漸く相付仰するの成績を示した

し其の新作披露を張るべし

廻は例年に比して十五日餘退り居るを以て出廻最盛期は何れ十一月中旬である可しと財務係日誌に出る仁川府財務部は二十九日附ながらも拘らる全部出勤役發給に拘るなりたり「甲斐番部米仁總監部甲斐監部協同會所賣店の理用處分方法につきても附録すべし」釜山府協同會山府協同會は廿八日午前十一時より

に各出張所分共二十八日出揃ひて

時より花房御旅所の地鎮祭を舉行
したり▲仁川神社例祭準備の爲
日舉行すべく仁川神社例祭準備の爲
め祭典委員は連日分擔されたる準備
賜金庫係長田中喜一郎氏は廿八日午

總決算は歳入に於て十一萬六千三百三十一圓

▲慈恵醫院 巡回診察 光州
慈恵醫院に於ては来る十一月十日より十二月廿七日迄
長城 聖光、咸平、穆安、木浦、
北行せり
人 消 息
▲中学校生徒 二年生は、は
原、二年生は成敏、四年生は元山より、特別
長城

習學校は各府郡に互り四十七校に

[illegible]

は皮を剥ぎて製鞋實習の材料に充

年々
 日るを以て同郡書記山妻太郎氏臨時代理を命ぜられたり▲
 浦野警察部長は螢光に虎被服を着たり
 陽防疫現況を巡視並に視察の爲め
 光州地方建設院局に拘束されたり
 光州地方建設院局に拘束されたり
 なりて舞臺に御座候
 石坂亨口占 無佛 陳人
 龍輿福路接春風、皇道亨達秋色間
 代老雄跡踏空花、龍宮突个牛天笑。
 (奎連より) 芳山

治養せしむるに止まらず一般農家

社たるに依り大抵を裁く一時に需用
餘を減じ從つて價格も低落したるが爲
大衆に別れの紅葉を告せしませ
目
池

總督府官報ヲ見ヨ

佛蘭西料理調進！

目錄

木浦大成洞 木浦派出

◎放浪漫筆
◎日蓮主義講話 小林 一郎

◎算術の解き方 岡田 昇一



京城日報

10

100

100

100

定例月報
皇太子殿下御下
中山侯爵の家庭
新大臣家庭
中川伯門夫人と愛嬌
憑賞寫眞(栗拾ひの人数)
醫院女學生生徒の運動振り
各々學校怪異譚
切腹の前後
出前前後の食養生

第七一〇一册 李松 著 地目路今市

外幣五元 谷下語電 明入次 (北橋世衛) 石打渡

二、附注

1954

[illegible]

渡邊默禪

た疑る所もなければ不自由でござりませう。だによつてそれは何ぞや。」
「朝よりいたして日に三度の辨當は参入朝やりまするし、又た夜其の二三投は入れてやりますで、まアくお父様のお歸りになるまでぐらゐは、よもや儼々死はしますまい。さア一夜の間けないうちにお引けなされ〜」其處にお立寄りになりましては、老人達の外達惡いしますお孝、汝も何故いつまで愚圖〜として居る。早う戻つてお頼きまを寢かして上げい。この女狸奴。」
老人の皮肉な叱咤は竹を挟むほどの痛快を極めた。三人はその言も出なくなつて、憎々と其處を去つた。

「花の蔭にやすふと見しまへに、我こそ花の主よ、夕ぐれなの北の蔭に〜」後には得意の謡をうたふが枯野のみが節々。

□天長佛奉祝發句

華風會春開の續き

果敢 萬葉集八巻の口占など 京城 未
晴れ 眞珠の玉の紅雲 同 未
せしめ 縁起の紅雲 同 未
我儘に 安んずる紅雲 同 未
一月 松原の雪時雨 同 未
一棧 舟の雪時雨 同 未
山花 花の下に 同 未
山花 花の下に 同 未
山花 花の下に 同 未

と同事務所に關する諸新聞を、日夜見
たり。其に於ては、**○**の字を、一時間預め
與行及び集會等、其結果を聞き得る所
あり。又、新聞記者何れも、其處へ來
た。其の編輯部現況より下掲如く紅紫の
○の字、被ば乗進する所當なき事、其
所近日三つあり。

▲前日の日曜に櫻
○の地に三十
十、九、五、三十
尺、一十八分と計
てゐる羽二重

二反を買つて歸て計つて見たら前の
は二十九尺二寸後のは二十九尺一
ちかつた普通の商店より除く程遠ま
しいと思ひました(タイ子) ▲本町某
會社の女の集金人は頗る人目を引
風をして居るが得意先で二重集金を
計つて見たら取付代に無法な料金を
吹き掛けたりする(メートル生) ▲京
城の官衙中には頗る権者な電話受付
が多い殊に調査局にあるのは其最
るものである(人民代表者) ▲道路
の修繕はよいが道つ端を掘り返して
其儘にして置く處があるから夜分か
どは頗る危険だ修繕には最少しな
應を重ねて貰ひたい(被衣者) ▲犬
病が流行して来た此際台や愛犬家は
各自賣犬の狂犬病に罹らざる手配


妊婦產婦留院(費用全替) 一本ツボヤ
十五錢均一
錦徳藥師監内(金谷トシ) 583 497
古本熱心高價買入 御電五九五番
是非無誤試讀 御電七七一番
電話開業一年紀念大割引のり
電話寫真海客進三、天長殿より
黄金山電門四三四號寫真館
内外招徠經驗老成方筆紙通達
批發兼批發前月時正後生退出
有者總集外物中不免人有
する者應集外物中不免人有
南町三八一十八番林有護婦童
行店出入用 仁川寺町 高野酒造場

▲鑛物分拆
京城太平通二二三〇元礦分拆所
電話二八二三 松永分拆所
鑛物分拆 京城鐵路二九九九
鑛山測量 金石商會
大失夫專任技師に依り正確測量
鑛物定量分拆
京城府太平通御製公論社左小路
電話一三四四番 坂元分拆所

貸家場 京城永樂町八丁目七番
日本建洋瓦三疊間取六畳二六疊
神土住宅二間 京坂電車官更向及
京城春川開行自動車賃金計道南商
電話一三四四番 坂元分拆所

貯蓄預金
元金
壹圓

比較
は最
良の
撰擇
法な
り!!!



サクラ

銀行一般の業務精々
爲換取組先内地方

★
株式
會社
百三三

京都市町
頭

資本金
五二

商

商

取百萬圓
 安田善三郎
 干銀行
 支店
 電話掛金京一八九番
 振替掛金京城一二三番
 御便利に御取扱申候
 面並朝鮮樞要の地に有之候
 正宗
 正宗
 目丁二町治明城京
 店支城京邑山
 番番番
 九四八
 四四五
 七五五
 番番番
 電話替換
 四八四
 一四一
 四四一
 番番番

[illegible][illegible]

出 出 船 發 發 發 發 發 發 發 發 發 發 發 發 發 發 發

「いかにも窮したらしい女の視線。一苦顔の色がまぎ／＼と眼に穿つて見えた。と、平馬は冷笑つて」「はいと、指環を……それはハヤシ、嘲笑干渉のことでござりますな。風呂に召す時とど何とかなら、指環をお取外しになるといふことはあが、髪を……いや物をお尋ねにの時に、一々お取外しになるとは一體なりや如何いよお禁厭でござりますなり」「だつて、それは……」

家の會に對する義務である重ねて云ふ時恰も朔期（しつき）の事なれば右の注意は夢の如くそかにするな（愛犬大曾全部）

▲鑑鏡（かんきやう）の棧（しき）にさんと御覽（ごらん）なれどす
すあなたの學校では中學校や高等女學校に學希望者のために早く例假（れいけ）をして下さい去年も一箇月市前に御始め下されましたので鑑鏡の生計に一番落着者が多かつた事は事實であります上併し何か鑑考（かんかう）もある事でありましてやうか（父兄の一人）▲南幸（なんこう）倉町和樂園から吉町町に振ける土丘が葎（むら）に押潰されたまま二箇月を経過するも尚ほ何卒の修築もせられず行上非常な困難を致しまして何卒も早く修築を急ぎ一般公衆に便宜立與（よ）へられん事を切望致します（毎日）

員 612 前 585 透文 590 生 507 石 488 428 箱

諸預金貸付爲替銀行
二取扱可申候

同

會社式 十



三 高	相 木	大 津	出 帆	三 高	相 木	大 津	出 帆
河 砂	河 砂	河 砂	河 砂	河 砂	河 砂	河 砂	河 砂
九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九
十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月
三十	三十	三十	三十	三十	三十	三十	三十
日	日	日	日	日	日	日	日
正午	正午	正午	正午	正午	正午	正午	正午
出	出	出	出	出	出	出	出
帆	帆	帆	帆	帆	帆	帆	帆

三
高
相
木
大
津
出
帆
河
砂
九九
十一月
三十
日
正午
出
帆
三
高
相
木
大
津
出
帆
河
砂
九九
十一月
三十
日
正午
出
帆

[illegible]

會社の女の衆金人は頗る人目を引くらしいと思ひました(チヤイ子) ▲本町某
 店をして居るが得意先は二重集金を
 出つて見たら取仕代に無法な料金を
 吹を掛けたりする(メートル生) ▲京
 城の官街中には頗る格好な電話受仕
 が多し殊に調査局にあるのは其格好
 なるものである(人民代表者) ▲道陪
 の修繕はよいが道つ端を掘り返して
 其儘にして置く處があるから夜が分
 だは頗る危険だ修繕班は最う少し公
 働を重じて貰ひたい(英客者) ▲犬大
 病流行して来た此際皆々愛犬家は
 各自愛犬の狂犬大病に罹らざる手配

比較
 は最
 良の
 撰擇
 法な
 り!!

サクラ
 サクラ

貯蓄預金
 元金
 壹圓

爲換取紙先手内地名

洋釘

金泉轄泉間自動車落時明
上り 前八二二 二二二

金泉轄泉間自動車落時明
下 前八二二 二二二

金泉轄泉間自動車落時明
上り 前八二二 二二二

金泉轄泉間自動車落時明
下 前八二二 二二二

金泉轄泉間自動車落時明
上り 前八二二 二二二

金泉轄泉間自動車落時明
下 前八二二 二二二

金泉轄泉間自動車落時明
上り 前八二二 二二二

金泉轄泉間自動車落時明
下 前八二二 二二二

[illegible]

資本金 五二〇萬圓

株式會社 京城市町屋

百三十三

限行一役の業務請々知

商

洋鐵

浪平板

田福
城京又
丁三通門大南
二一第

發 發 發 發 發 發 發行

「ボヤ手前。何でございます。」
「私しね。土蔵の中に取落して來た物があるのよ。外の物ぢやないんだけれど、私には大事な指環と指差のよ。ほら、お前も知つててせう。いつかお父様に貰つて戴いたダイヤ入の……ね、あれよ。七百圓から出た品なんだから、失なしてもするど大層だわ。誰か大形を採る時に、彼處の棚あたりに落こさしたらうと思ふから、濟まないけども、」

○美南入其社 十五錢大阪市南區金邊樓
○衛生部 十五錢 十國東京市芝罘區小町
西五十四號
○美南入其社 十五錢大阪市南區金邊樓
○衛生部 十五錢 十國東京市芝罘區小町
西五十四號
○美南入其社 十五錢大阪市南區金邊樓
○衛生部 十五錢 十國東京市芝罘區小町
西五十四號

べき来に脂助虫白濁粉物質要
 身滋養物は完全な備はつてある
 脚氣患者が常に食したる病脚氣病
 又此炊き方で飯を食し腹に入つては
 保つ事出来ず又腹に入つては
 何事出来ず又腹に入つては
 此方であらまきを履き上りま

傳授時間 僅かにて出

京城南山町 清防所附

登


①名大 物語 語加 雜異 九五
 ②八犬傳 物語 加 雜異 九五
 ③柿本人麿 隱居山僧 六六
 ④誰にも着る 廢物利用法 白鷺子 三三
 ⑤人生の旅行 村田 五六
 ⑥武金 物語 語加 雜異 四四
 ⑦戀愛期 に入れる少女海田正史 八八
 ⑧吸 福南 天輝 九九
 ⑨牧野 閑 話 岩間 時峰 〇〇
 ⑩古陶文語語及文範 芳野 三三
 ⑪萬葉未來記 野田 北郎 三三
 ⑫筑洲の崎き 芳岡 正 五五

發 發 發 帆田部帆十

渡邊獸禪

大正

[illegible]


家庭の福音
 玄米 玄米 玄米 玄米
 多年苦心いたしました。玄米飯
 子玄米ミルク製法を發見いたしました。
 で豫て普通白米を御炊きにたし器
 此方婦人方には是非必要なる
 此方を敬愛いたします。

新刊書御案内	書名	著者	定價
債權者の法律顧問	山田 健太郎	八	
製材	山田 太郎	五	
間	學田 六五	九	
讀方教授實際案	小林佐治	下巻九	
放浪漫記	大谷 光瑞	三〇〇	
日産生漫書	香小林 一郎	三〇〇	

帆 帆帆 帆帆 帆帆